

シーシーエス株式会社 2011年7月期第2四半期 業績の概要

2011年3月11日(金)

ジャスダック 証券コード6669

目次

1. 中期経営計画(サマリー)
2. 2011年7月期第2四半期業績(連結)
3. 2011年7月期重点施策とその成果
4. 参考資料

1. 中期経営計画(2011/7 – 2013/7期)

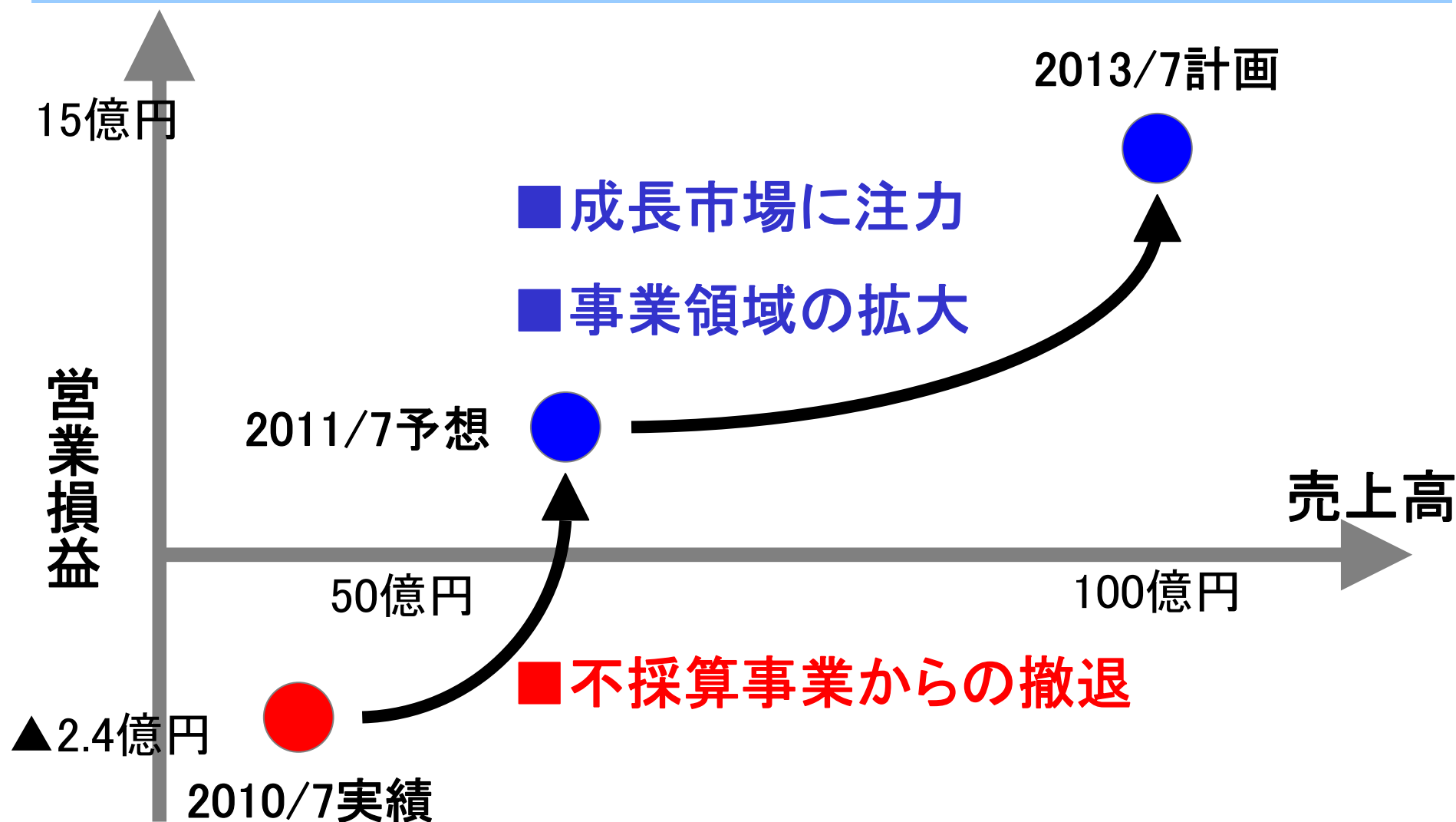
光へのチャレンジ 20

中期経営計画について詳しくはコチラをご覧ください。

http://www.ccs-inc.co.jp/s3_ir/s_02.html

構造改革 『2010年7月期を踏まえ』

本業の基盤拡大と新たな事業の柱による成長



構造改革 財務体質の改善

1. 対処すべき最重要課題

グループ方針:

2011年7月期決算以降、ステークホルダーに対する責任として下記三項目を最優先に遵守

(1) グループ連結・単体黒字の厳守

(2) GC注記の早期解除

(3) 自己資本比率の回復

数値目標 2013年7月期 35%

構造改革 財務体質の改善

2. グループ方針に基づく中長期計画

中長期計画:

グループの持続的な成長のため企業基盤を拡充

環境認識

工業用照明市場における
未開拓市場の存在

LED照明市場における
量から質への転換

植物育成プラント市場の
拡大

対応策

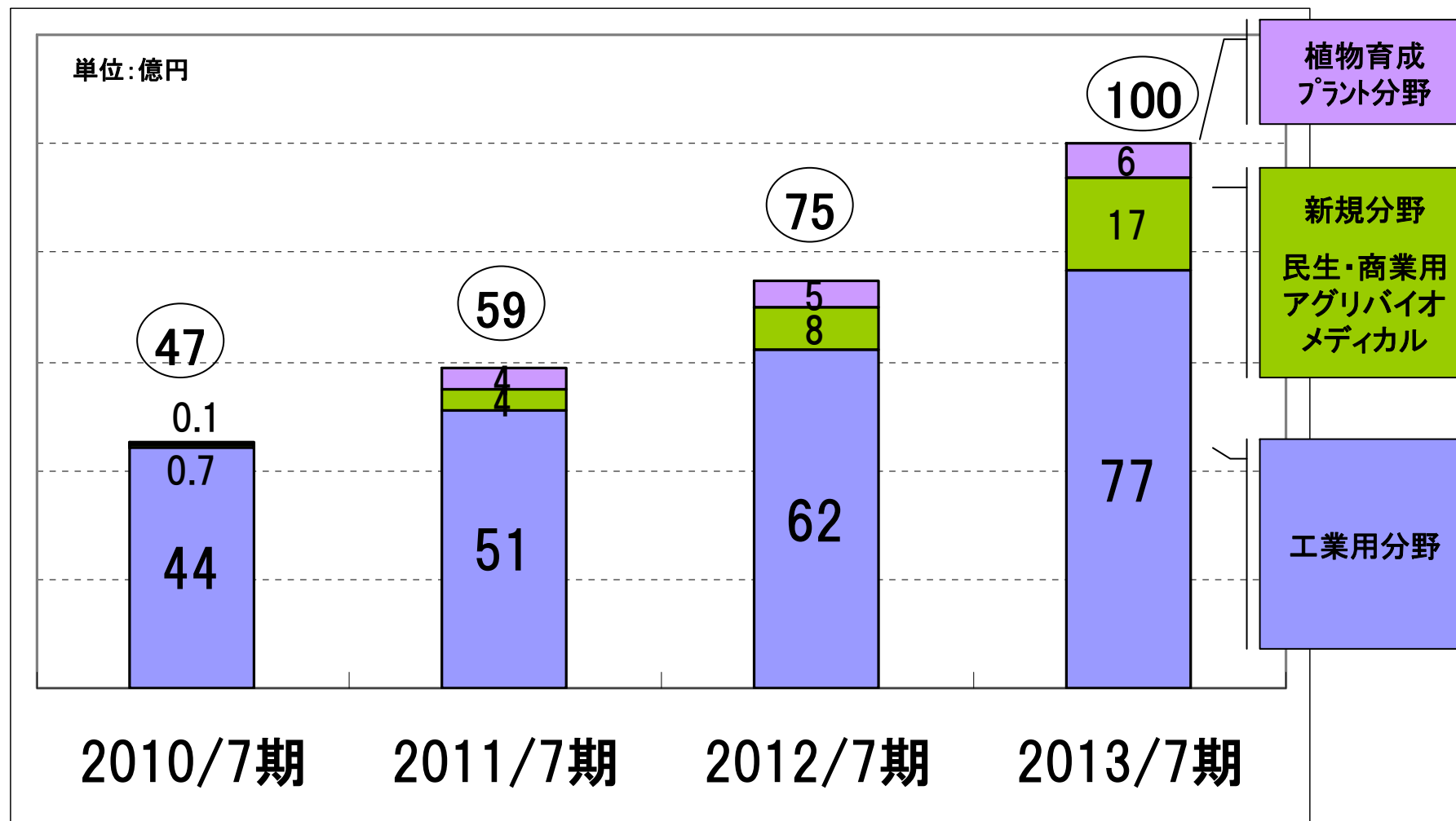
(1) 工業用照明事業の
更なる拡大

(2) 自然光LEDを核とした
新規事業の確立

(3) 植物育成プラント事業の
確立

中期計画 2013年7月期 計数計画

2013年7月期計画 売上高100億円



中期計画 2013年7月期 経営指標

2013年7月期計画 自己資本比率 35%

単位:百万円

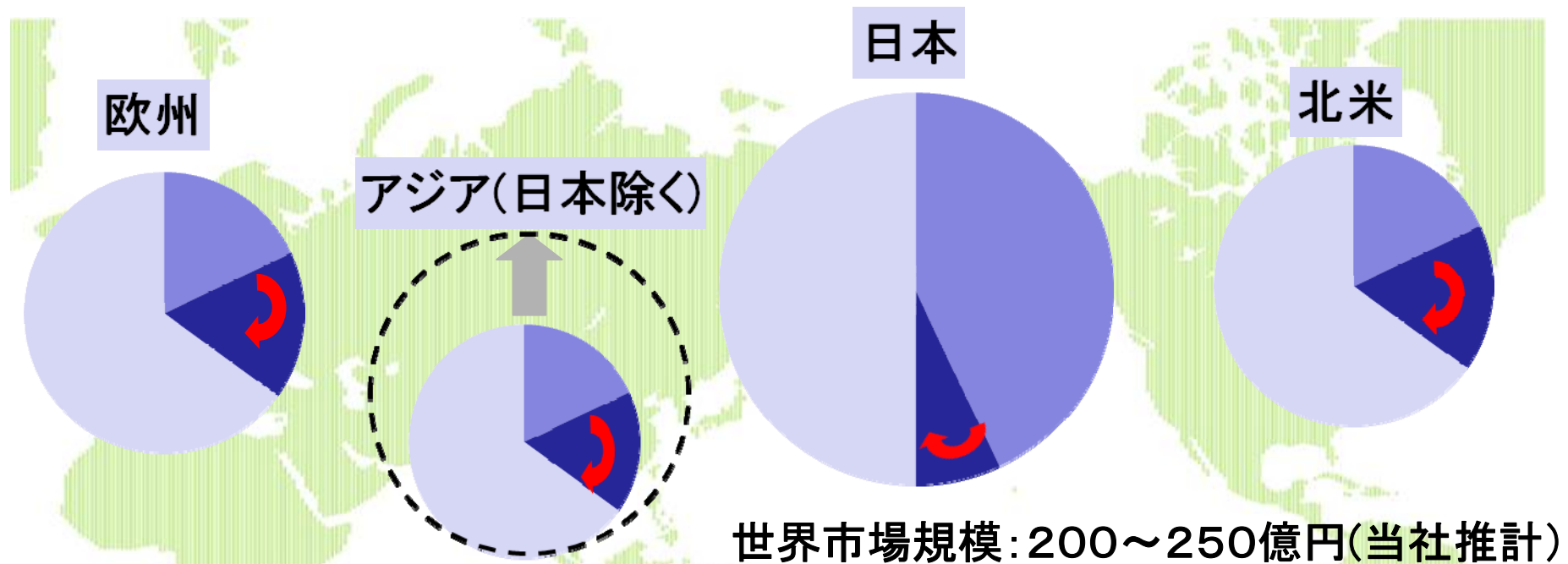
摘 要	2010/7期	2011/7期	2012/7期	2013/7期
売 上 高	4,775	5,980	7,500	10,000
営 業 損 益	▲239	350	750	1,500
自己資本比率	18.5%	22%	27%	35%

■マシンビジョン製品

海外売上比率	32%	33%	36%	40%
--------	-----	-----	-----	-----

工業用照明事業“NO.1戦略”

マシンビジョン照明 世界全地域シェアNo.1へ



【成長市場に注力】

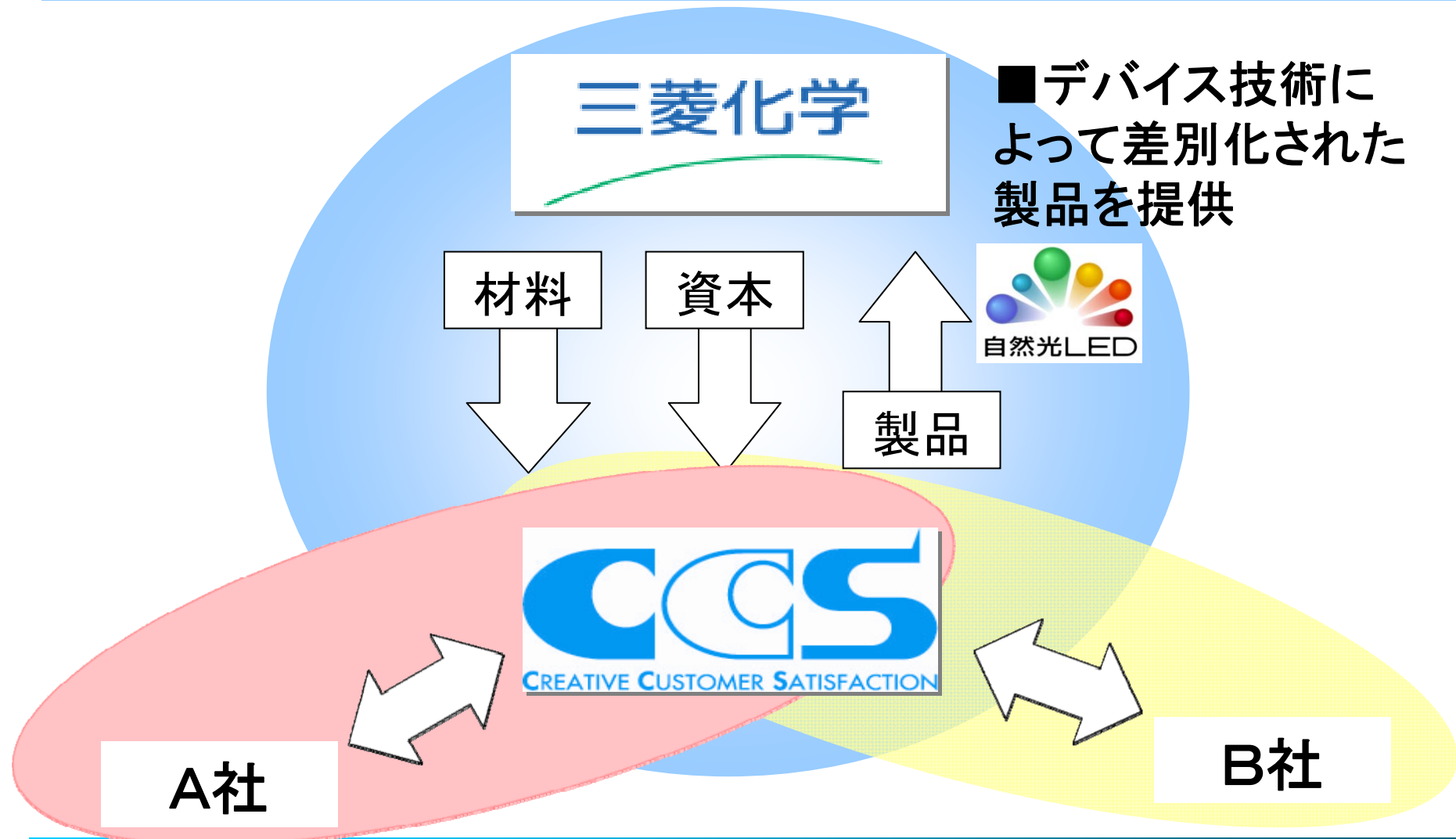
地域: アジア(除く日本)市場
製品: ライン照明市場

【事業領域の拡大】

UV市場攻略
目視・顕微鏡市場拡大

新規事業“アライアンス戦略”

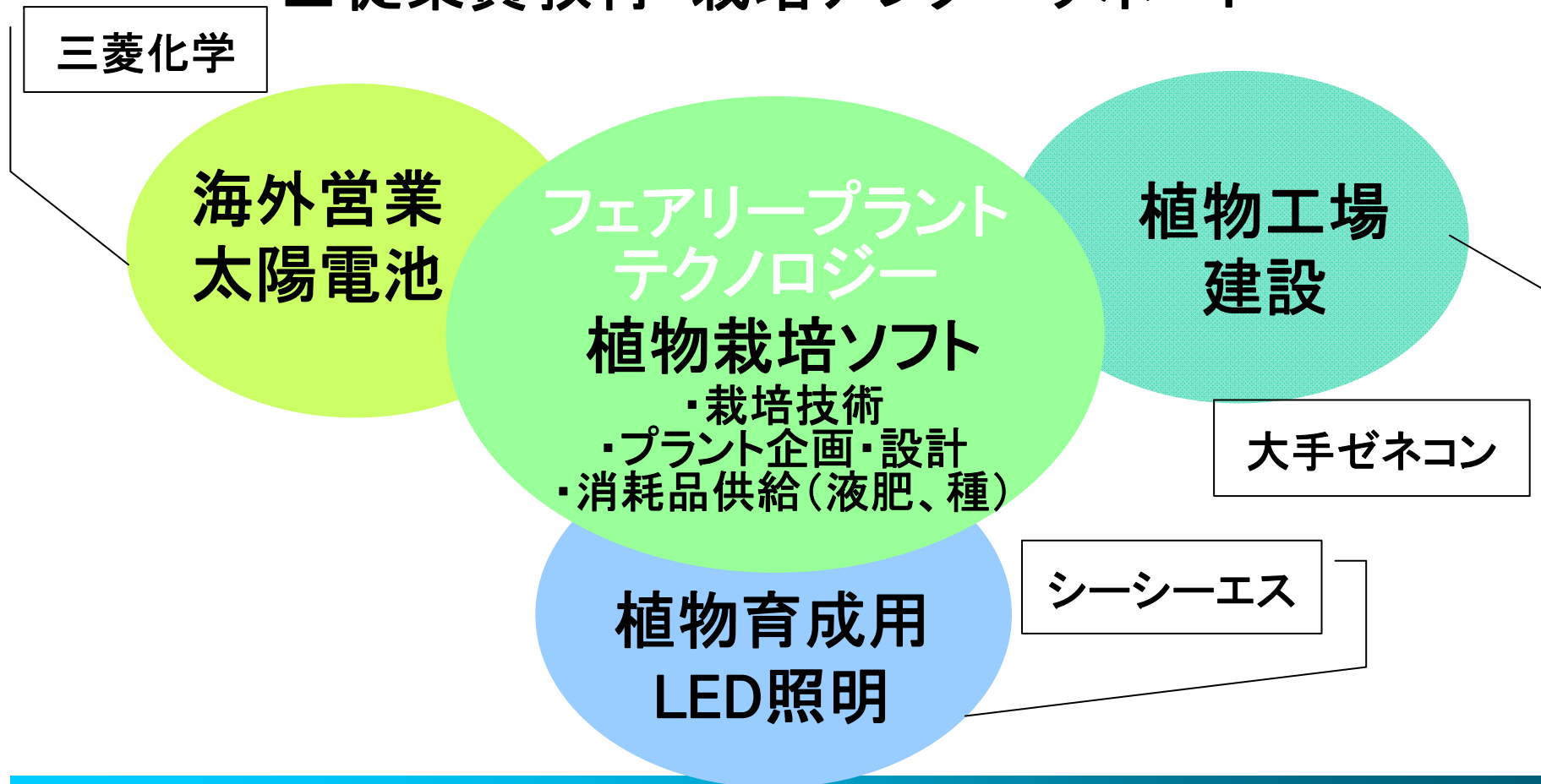
自然光LEDの本格展開



新規事業“アライアンス戦略”

植物育成プラント事業の確立

- 植物栽培コンサルティング
- 従業員教育・栽培アフターサポート



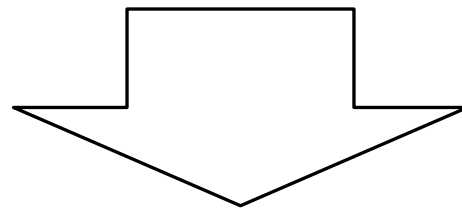
持続的な成長“インド戦略”

開発力の強化とコスト競争力の強化

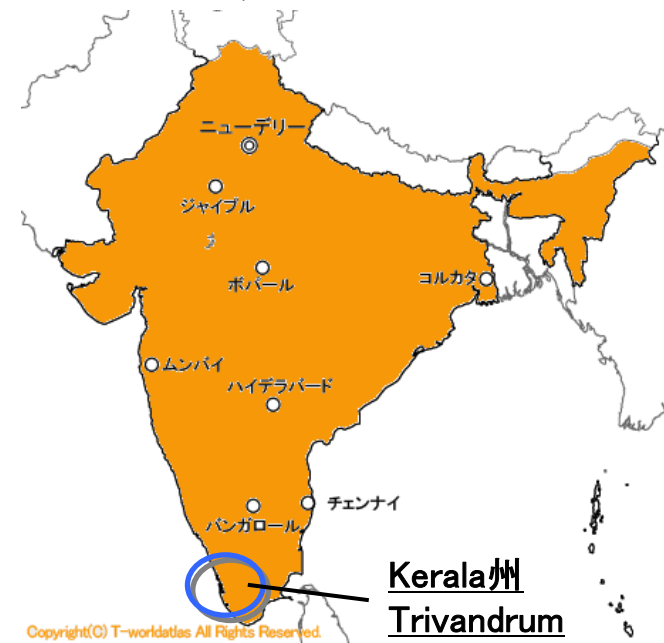
■ 新たな拠点の開設を検討し、コスト競争力を強化

- ・ 開発拠点として、低コスト、高品質を実現
- ・ リソース増加により、開発のスピードアップ
- ・ 製造拠点としての立ち上げも

視野に入れて検討



インドでの拠点開設を
検討・準備中



2. 2011年7月期第2四半期業績 (連結)

2011年7月期第2四半期連結業績(前期比)

(単位:百万円)

	2010/7 2Q		2011/7 2Q		変動	
	累計実績		累計実績		前年同期比	
	金額 [A]	対売上比 (%)	金額 [B]	対売上比 (%)	[B]-[A]	[B]/[A] (%)
売上高	1,951	100.0	2,608	100.0	657	133.7
売上総利益	974	49.9	1,568	60.1	594	161.0
販管費	1,397	71.6	1,450	55.6	53	103.8
営業利益	-423	-21.7	117	4.5	540	—
経常利益	-450	-23.1	101	3.9	551	—
当期純利益	-397	-20.3	49	1.9	446	—

前年同期比

キーポイント

売上高

販管費

営業利益

当期純利益

工業用照明分野で売上拡大

前年同期比微増

売上増加と事業見直しにより大幅改善

黒字化へ改善

2011年7月期第2四半期連結業績(計画比)

(単位:百万円)

	2011/7 上期				変動	
	計画		実績		計画比	
	金額 [A]	対売上比 (%)	金額 [B]	対売上比 (%)	[B]-[A]	[B]/[A](%)
売上高	2,700	100.0	2,608	100.0	-92	96.6
売上総利益	1,606	59.5	1,568	60.1	-38	97.6
販管費	1,616	59.9	1,450	55.6	-166	89.7
営業利益	-10	-0.4	117	4.5	127	—
経常利益	10	0.4	101	3.9	91	1010.0
当期純利益	-30	-1.1	49	1.9	79	—

	計画比	キーポイント
売上高	➡	工業用照明は計画水準、新規で苦戦
販管費	➡	経費見直しにより削減
営業利益	➡	計画より大幅に黒字化
当期純利益	➡	黒字化へ転換

2011年7月期計画(連結)～修正計画～

(単位:百万円)

	2011/7通期				変動	
	当初計画		修正計画		当初計画比	
	金額 [A]	対売上比 (%)	金額 [B]	対売上比 (%)	[B] - [A]	[B]/[A] (%)
売上高	5,980	100.0	5,600	100.0	-380	93.6
売上総利益	3,647	61.0	3,420	61.1	-227	93.8
販管費	3,190	53.3	3,060	54.6	-130	95.9
営業利益	350	5.9	360	6.4	10	102.9
経常利益	420	7.0	330	5.9	-90	78.6
当期純利益	240	4.0	110	2.0	-130	45.8

	計画比	キーポイント
売上高	➡	新規事業、プラント事業で減少
販管費	➡	開発計画の見直し、事務効率化によって削減
営業利益	➡	当初計画水準を維持
経常利益	➡	プラント事業の副産物収入が減少
当期純利益	➡	経常利益の減少による

決算キーポイント

- 工業用照明分野において、国内ではスマートフォン及びタブレット型携帯端末向けの市場が拡大したことから、電子半導体向けが好調
- 海外では欧州において、電子半導体向けの照明、化学・薬品の検査用途向けのライン照明が好調
- 生産効率の改善や経費の見直しによるコスト削減により、営業利益が大幅に改善。当期純利益も黒字化へ改善
- 子会社フェアリープラントテクノロジーは、2010年9月をもって野菜事業、レストラン・カフェ事業から撤退。前期に比べ、赤字幅が減少

※子会社フェアリーエンジェルは、2010年9月をもって商号を株式会社フェアリープラントテクノロジーへ変更しました。

GC注記について【第2Qの状況】

営業利益及び経常利益を積み増し、黒字体質を継続するも、
新規事業、植物育成プラント事業は基盤整備に注力し、販売活動に遅れ

(単位:百万円)

	2010/7 実績		2011/7 計画(修正後)		2011/7 2Q実績	
売上高	4,775	-	5,600	-	2,608	-
営業利益	-239	-5.0%	360	6.4%	117	4.5%

GC注記の要因

- ①2期連続営業損失
- ②2期連続営業キャッシュフローのマイナス
- ③フェアリーエンジェル社の債務超過
- ④コミットメントライン契約の財務制限条に抵触

2Qの状況

- ①2Qで17百万円、累計117百万円の営業利益を計上
- ②2Qで115百万円、累計239百万円の営業キャッシュフローを計上
- ③9月末において不採算事業から撤退し、赤字幅を縮小
- ④期限の利益喪失請求の猶予について同意をいただく

以下の対応策を実施し、収益面を着実に改善することで早期のGC注記解消を目指す

- ✓LED照明事業の拡大による大幅黒字確保・・・国内販売・海外展開の強化、新規事業の早期事業化
- ✓フェアリープラントテクノロジー社の構造改革
 - ①不採算事業の撤退と財務基盤の強化・・・コスト管理を徹底、資金の効率的な運用
 - ②植物育成プラント事業の確立・・・顧客のニーズに応じた提案、受注獲得に注力

事業別の状況

(単位:百万円)

【売上高】	2010/7 2Q	2011/7 2Q	変動	
	累計実績 [A]	累計実績 [B]	前年同期比 (%) [B] - [A] [B] / [A]	
■LED照明事業	1,826	2,487	661	136.2
■植物育成プラント事業	0	33	33	11,785.7
■その他事業	124	87	-37	70.2

【営業利益】	2010/7 2Q	2011/7 2Q	変動	
	累計実績 [A]	累計実績 [B]	前年同期比 [B] - [A] [B] / [A]	
■LED照明事業	-118	297	415	—
■植物育成プラント事業	-11	-104	-93	—
■その他事業	- 232	-58	174	—

LED照明事業は、電子・半導体分野向けを中心に大幅に回復しました。
野菜事業、レストラン・カフェ事業(その他事業)は2010年9月をもって撤退し、赤字幅を縮小しました。

貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

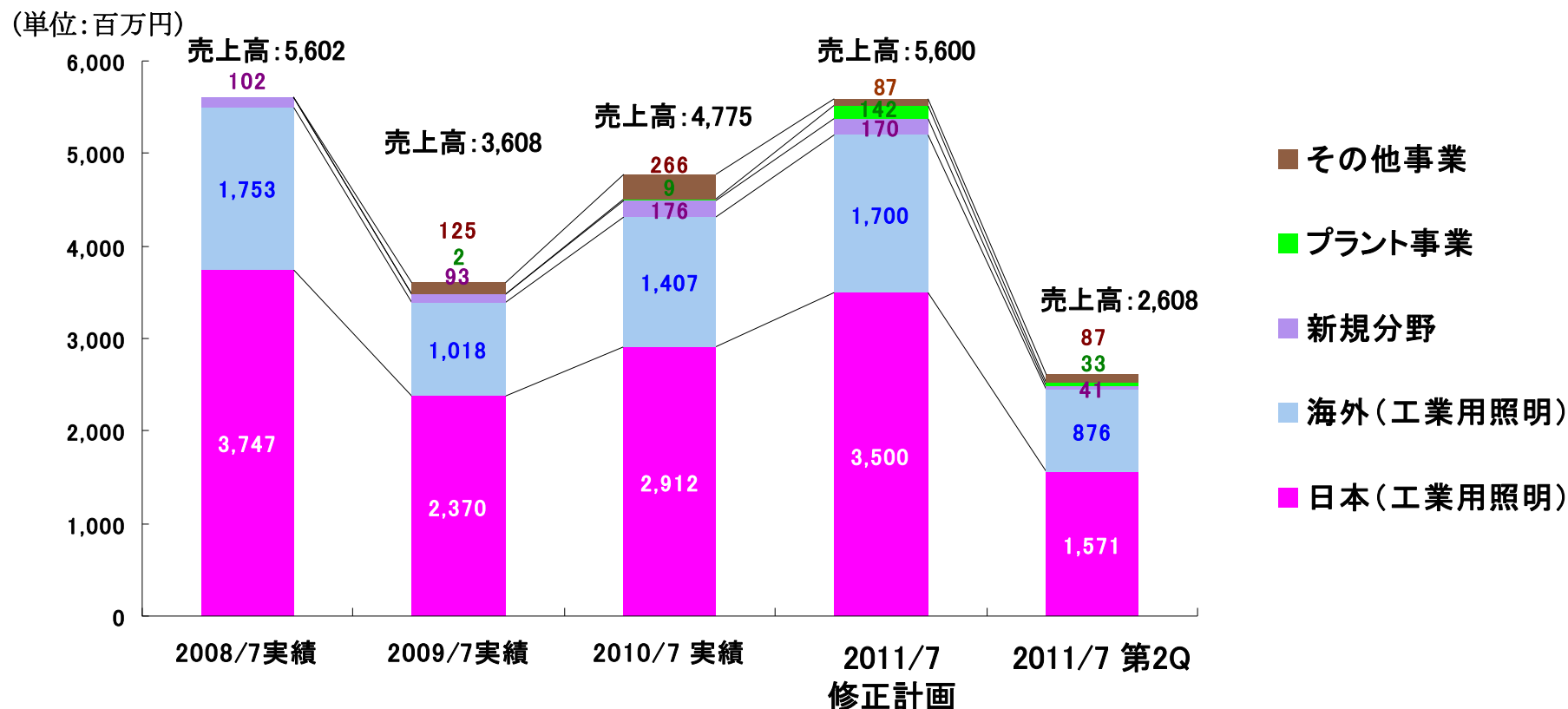
資産	10/7 第4Q	11/7 第2Q	負債・純資産	10 /7 第4Q	11/7 第2Q
現金及び預金	754	770	流動負債	2,516	2,600
受取手形・売掛金	1,501	1,203	固定負債	1,755	1,425
たな卸資産	770	960			
その他	276	248			
流動資産合計	3,301	3,182	負債合計	4,271	4,026
有形固定資産	1,764	1,739	資本金	461	461
無形固定資産	81	72	資本剰余金	576	576
投資その他の資産	90	96	利益剰余金	200	146
			自己株式	△159	－
			為替換算調整勘定	△112	△119
			新株予約権	－	－
			少数株主持分	－	－
固定資産合計	1,936	1,908	純資産合計	966	1,064
資産合計	5,237	5,091	負債・純資産合計	5,237	5,091

自己株式は第三者割当により処分しました。

3. 2011年7月期重点施策と その成果

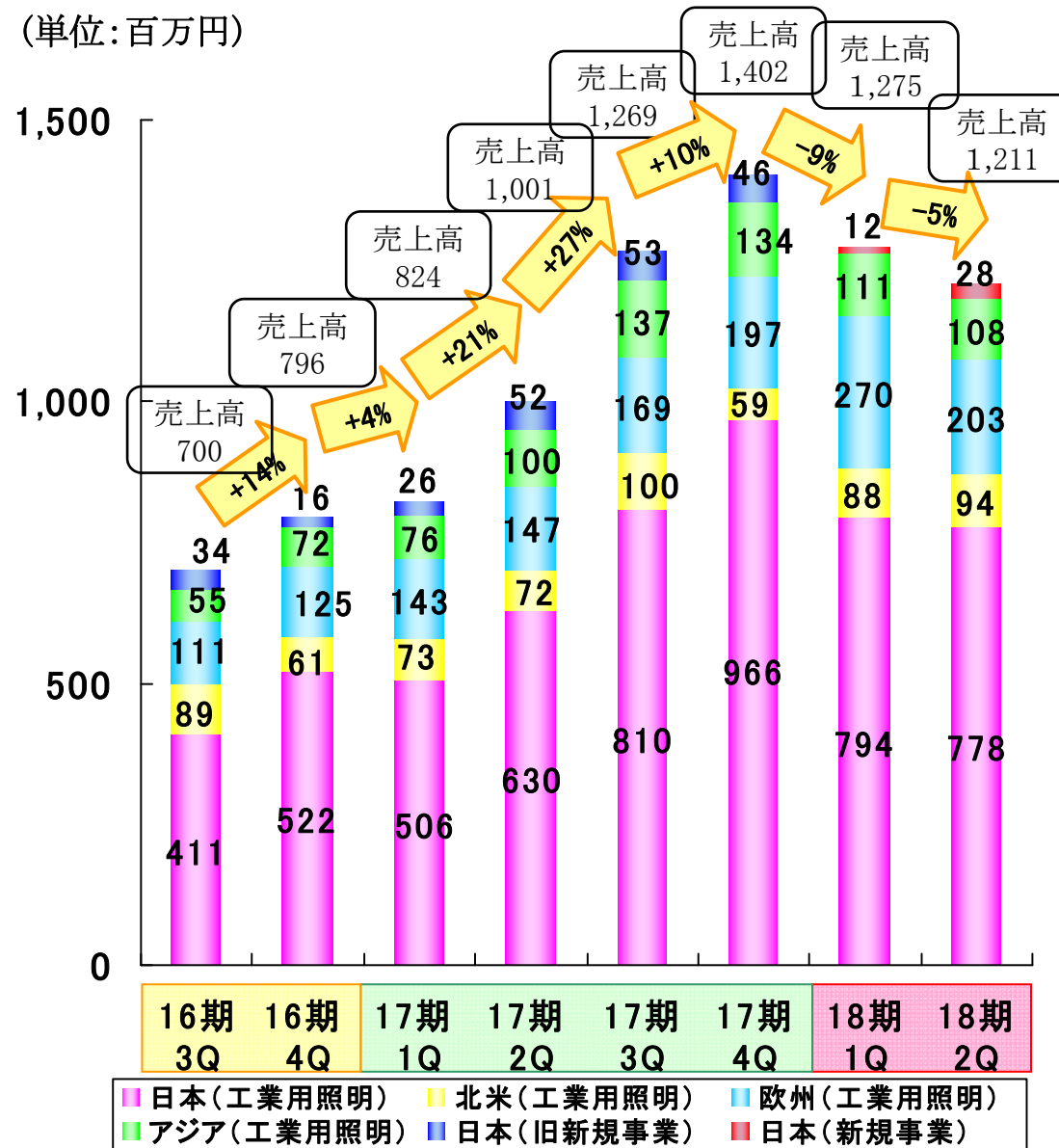
2011年7月期 重点施策

- (1) 国内工業用照明分野の強化・拡大
- (2) 海外事業展開のための体制づくり
- (3) 新規事業分野本格立ち上げ
- (4) 植物育成プラント事業の確立



LED照明事業・地域別売上高(連結)

(単位:百万円)



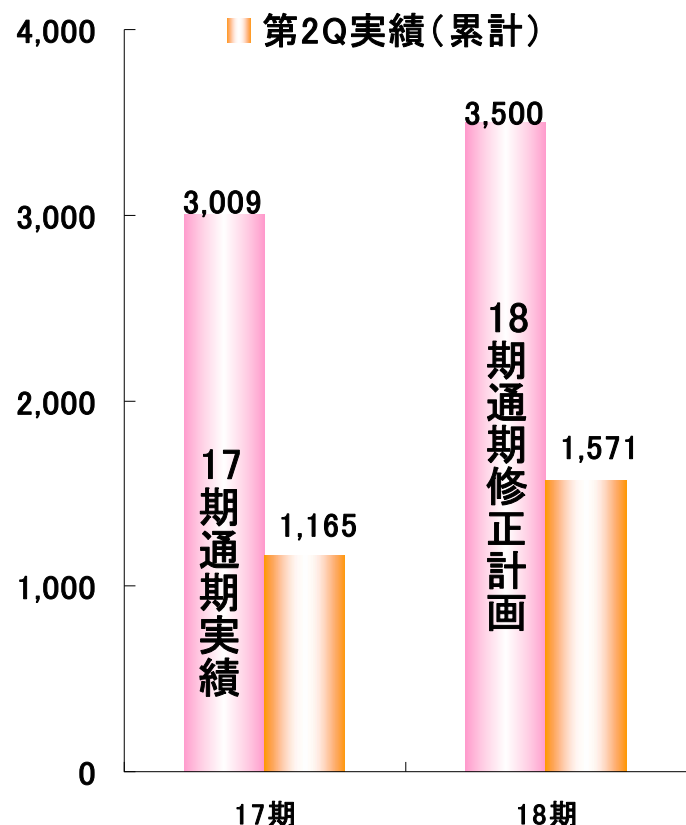
主な重要分野	業界状況	当社の状況
電気・電子半導体	スマートフォン・タブレットPC向けは活況。二極化の傾向。装置メーカーは、足踏み状態	スマートフォン・タブレットPC向けは活況。装置メーカーは欧州及び国内メーカーにおいて受注が活発
太陽電池	普及がある程度進み、国内出荷の伸び率は鈍化	顧客ニーズに応じた提案が重要
自動車	新興国・北米向けを中心とした海外生産が増産傾向。国内は抑制	自動車向け電子部品は好調だったものの、自動車メーカーは横ばい
三品(食品・薬品・化粧品)	包装・パッケージは、省人化を強化傾向	PTP検査・印字検査の自動化が進んでいるため案件が増加

2011年7月期重点施策と成果

国内(工業用照明)

重点施策[1]:国内工業用照明分野の強化・拡大

(単位:百万円)



18期より新規FAIは工業用照明分野に含むため、
17期実績を組み替えております。

当社の状況

【総括】

- ・スマートフォン、タブレットPC市場の活況により電子・半導体関連向けが非常に好調
- ・新興国を中心に、現地企業は現地調達・現地購買へシフトする傾向
- ・ライン照明は、フィルム向けを中心に引き合い活発化
- ・UV・目視顕微鏡(工業用)の売上が好調

【売上状況】

- ・画像処理用検査照明では、電子・半導体関連からの受注が堅調
- LDR2シリーズ(リング照明)、LDL2シリーズ(バー照明)が好調

国内工業用照明分野における成果

2011年7月期重点施策[1]:国内工業用照明分野の強化・拡大

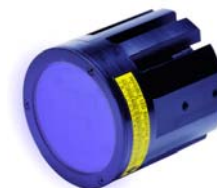
新規FA分野が順調な滑り出し

・新規FA分野とは

主にFA(ファクトリーオートメーション)で使われる画像処理用途以外の照明。
これまでの研究開発、営業活動が実り受注拡大。

・UV市場 : 紫外LEDならエリア照射が可能となる

紫外LED照明
(面タイプ)



用途例

印刷業界 : インクの硬化(あるいは固定)
電子・半導体業界 : ウエハの保護シートの剥離。FPDの接着・硬化。
電子基板の露光

・目視・顕微鏡 : 自然光LEDなら本当の色が見える

用途例

印刷業界 : 色の検査
製造業全般 : 目視検査用
研究分野等 : 顕微鏡照明・・・オリンパスの生物顕微鏡に採用



国内工業用照明分野における成果

2011年7月期重点施策〔1〕:国内工業用照明分野の強化・拡大

製品ラインナップが更に充実(新製品の投入)

・「PFB2シリーズ」を新発売(2010年10月1日)

☆従来品より明るさ30%向上、消費電力30%ダウン

☆ハロゲン光源ボックスの置換えとして
LED光源ボックスの導入が進む

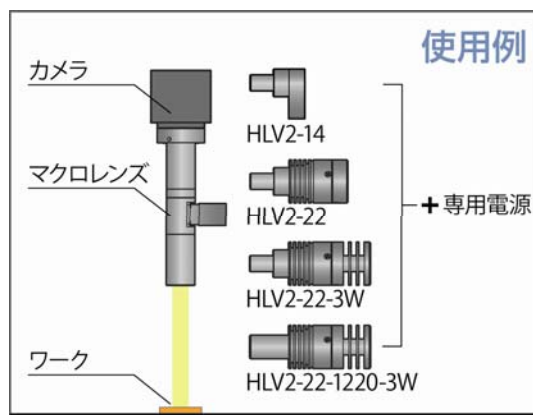


・「HLV2-14」を新発売(2010年11月15日)

■軽量・小型設計で場所を取らず省スペース
HLV2-14シリーズは軽量・コンパクト設計で
省スペース利用に最適です。



質量わずか
18g



指先サイズ

国内工業用照明分野における成果

2011年7月期重点施策〔1〕:国内工業用照明分野の強化・拡大

東京営業所移転(2010年11月24日)



ライン市場へ取組み強化！
(ライン用実験室の新設)



交通の利便性向上

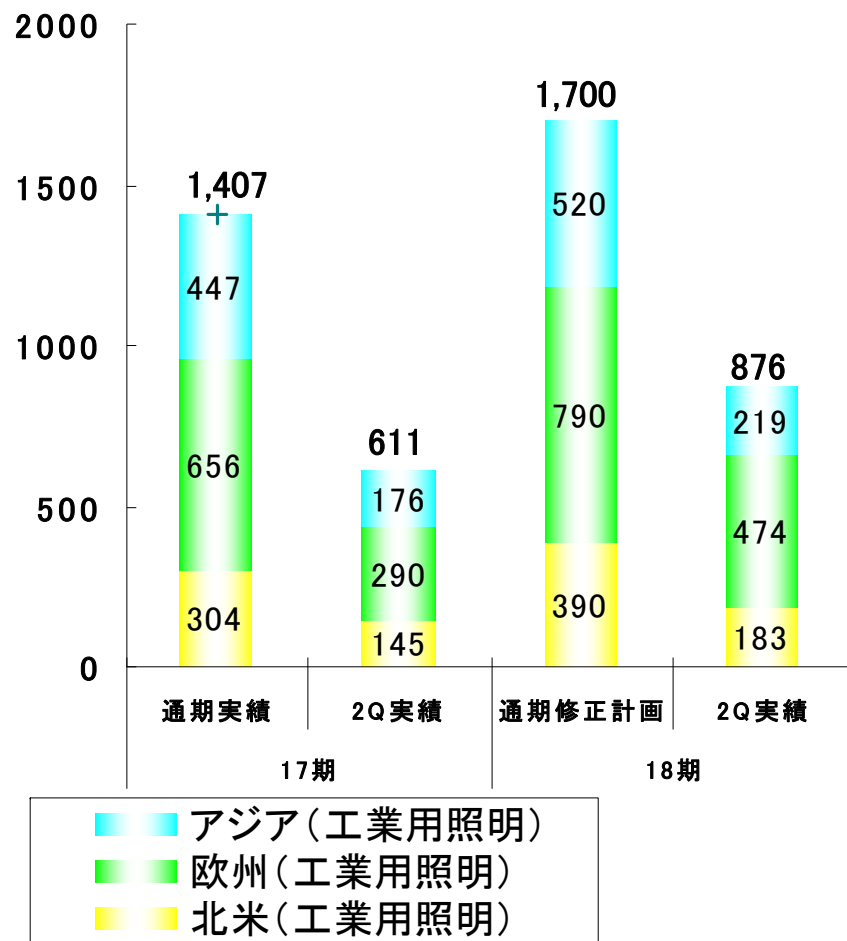
渋谷区恵比寿(朝日生命恵比寿ビル)

2011年7月期重点施策と成果

海外(工業用照明)

重点施策〔2〕: 海外事業のための体制づくり

(単位: 百万円)



当社の状況

【欧州】

これまで関係強化を続けてきた、電子・半導体関連の大口顧客からの受注及び売上が好調に推移

【北米】

主要代理店への関係強化を実施。企業設備投資が回復傾向にあり、総じて受注は堅調に推移

【アジア】

中国では、電子・半導体関連の設備投資が好調。東南アジアは競合の台頭が大きいため新たなマーケットへ参入を目指し、2010年12月タイ駐在員事務所開設。新興国需要への対応を強化

海外工業用照明分野における成果

2011年7月期重点施策〔2〕: 海外事業展開のための体制づくり

タイ・バンコクに駐在員事務所を開設(2010年12月)

～新興国需要への取組み強化～

CCSAsia タイ駐在員事務所



顧客満足の最大化

現地ニーズに迅速対応

的確な現地情報の把握

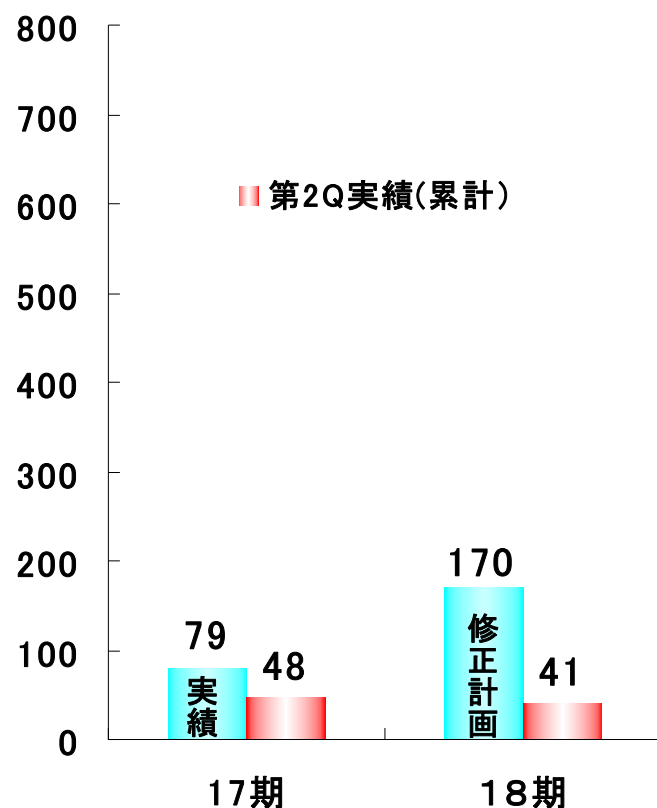


2011年7月期重点施策と成果

新規事業分野

重点施策〔3〕:新規事業分野本格立上げ

(単位:百万円)



18期より新規FAは工業用照明分野に含むため、
17期実績を組み替えております。

当社の状況

- ・宝石貴金属店向けLED照明「ダイヤモンドライト」を発売(平成22年12月8日)
- ・美術館・博物館における自然光LED照明の採用が進む
 - ☆2010年 長谷川町子美術館に導入(東京)
 - ☆2011年 伝統神社の新築社殿に導入(京都)
 - ☆上記の他、10件程度導入済
- ・三菱化学(株)と定期的に分科会を開催。その他のアライアンス事業を含め、事業領域の構築を図る
- ・自然光LED照明を中心に製品ラインナップ拡充への基礎固めに注力

新規事業分野における成果

2011年7月期重点施策〔3〕:新規事業分野本格立上げ

自然光LEDを搭載した製品を順次発売



第22回国際宝飾展に出展しました。

(2011/01/26～29)

ご好評頂き、今後に大きな期待！

宝石の本来の色と輝きを再現す照明

「ダイヤモンドライト」2010年12月8日発売

「自然光LEDランプ」は
「2010年度グッドデザイン賞」(Gマーク)を受賞！

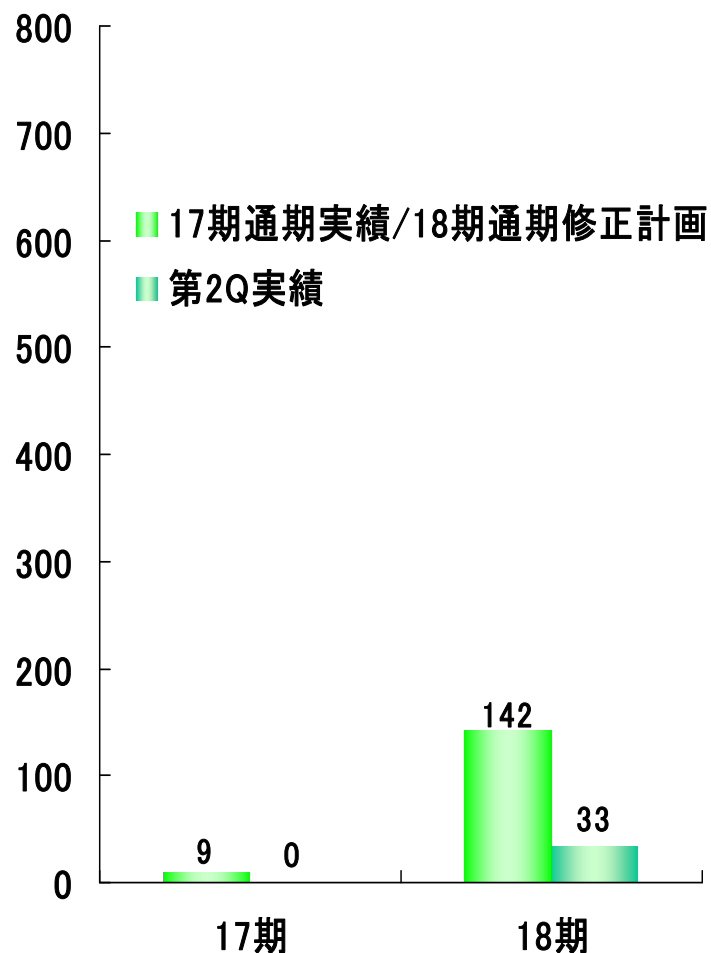


2011年7月期重点施策と成果

植物育成プラント事業

重点施策〔4〕:植物育成プラント事業の確立

(単位:百万円)



当社の状況

- ・前会計年度に事業提携を結んだ(株)フジワークにて第1号植物工場が稼動開始(2010年8月17日)
- ・簡易型の野菜栽培ユニット「ミニベジプラント」を開発。拡販に注力
- ・平成22年9月商号を株式会社フェアリープラントテクノロジーへ変更。経営体制を刷新し、事業基盤の早期確立に向けて注力

野菜事業、レストラン・カフェ事業は平成22年9月をもち撤退

植物育成プラント事業分野における成果

2011年7月期重点施策〔4〕:植物育成プラントの確立

- ・2010年8月(株)フジワークにて第1号ショップ併設型植物工場稼動
(大阪府高槻市)



- ・容易にできる完全無農薬の野菜栽培ユニット
「ミニベジプラント」を開発



LED照明を用いた栽培風景(研究用途)



3. 参考資料 ～会社概要～

シーシーエスの企業理念

光を科学し、社会に貢献する

Creative Customer Satisfaction
クリエイティブ カスタマー サティスファクション

お客様の満足を高めるための技術と
製品をひたむきに追求し、
企業活動を通じて社会の役に立ちたい

会社概要

- 商号
- 本社所在地
- 代表者
- 創業
- 設立
- 資本金
- 従業員数
- 発行済株式総数
- 株主数
- 連結子会社

- 拠点数

シーシーエス株式会社

京都府京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374

代表執行役社長 米田 賢治

1992年

1993年10月

461百万円

連結 201名(連結)、161名(単体)

20,660株

2,751名

CCS America, Inc. / CCS Asia PTE LTD / CCS Europe NV

株式会社フェアリープラントテクノロジー

(2010年9月29日株式会社フェアリーエンジェルより商号を
変更いたしました)

国内 6ヵ所 / 海外(連結子会社含む) 5ヵ所

※2010年12月 タイ・バンコクに駐在員事務所がオープン。
現在は6ヶ所



本社(京都市上京区)

(2010年7月末現在)

沿革

1992	創業
1993	シーシーエス株式会社設立
1994	画像処理用LED照明事業に特化
1999	CCS America Inc.(100%子会社)を設立(ボストン)
2000	東京営業所を開設(品川区高輪台)
2001	本社移転(現在の本社)
2003	上海事務所を開設(中国 上海市)
2004	CCSロジスティックセンターを開設(京都市伏見区) ジャスダックに上場 RDV(S)PTE LTD社を子会社化(シンガポール) CCS Europe NV(100%子会社)を設立(ベルギー)
2005	名古屋テストングルームを開設(名古屋市西区)
2007	生産拠点と物流拠点を統合し、生産センターを開設(京都市下京区) 仙台テストングルームを開設(宮城県仙台市青葉区) 山口大学との共同開発で自然光LED照明を開発
2008	シーシーエス光技術研究所を開設(京都市上京区) 植物育成プラント事業に参画することを目的としてフェアリープラントテクノロジー社 (2010年9月29日フェアリーエンジェル社より商号変更)を連結子会社化
2009	自然光LEDの店舗用照明を開発。民生・商業分野へ参入
2010	三菱化学株式会社との間で資本・業務提携を締結

参考資料：LED開発の歩み

1962年代	赤色と黄緑色が開発
1970年代	赤色と黄緑色が実用化
1993年	青色が製品化
1995年	純緑色の開発 光の三原色がそろそろ
1996年	白色が開発
現在	発光効率の向上 高演色性白色の開発

シーシーエスグループの事業領域

工業用照明

マシンビジョン用照明分野



新規事業

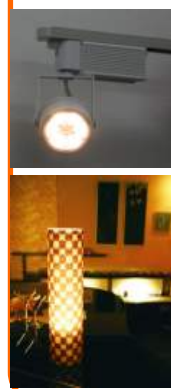


植物育成 プラント事業

新規FA分野



民生・商業分野



メディカル分野



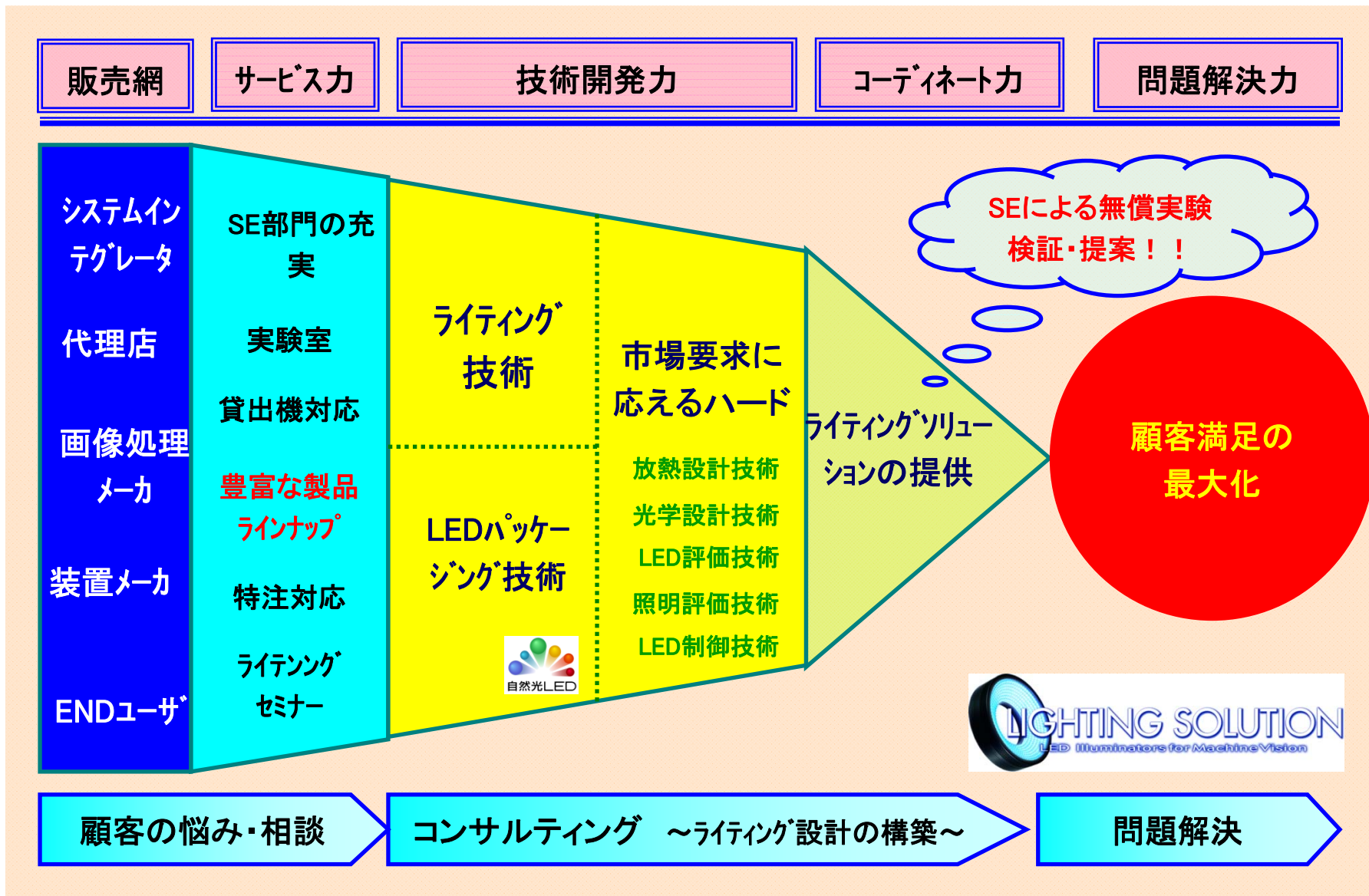
アグリバイオ分野



(株)フェアリープラントテクノロジー



工業用LED照明事業のビジネスモデル

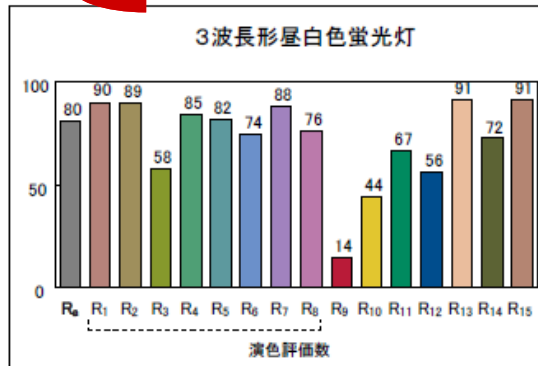


マシンビョン用LED照明のリーディングカンパニー

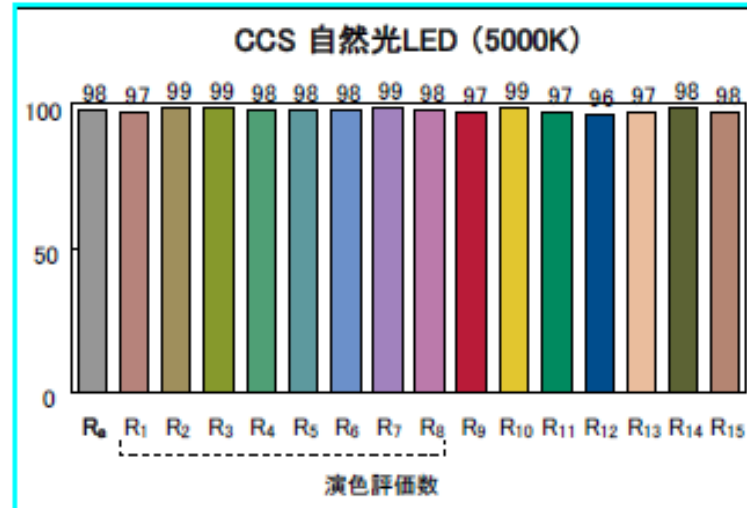


シーシーエスのLEDデバイス技術

業界最高の演色性

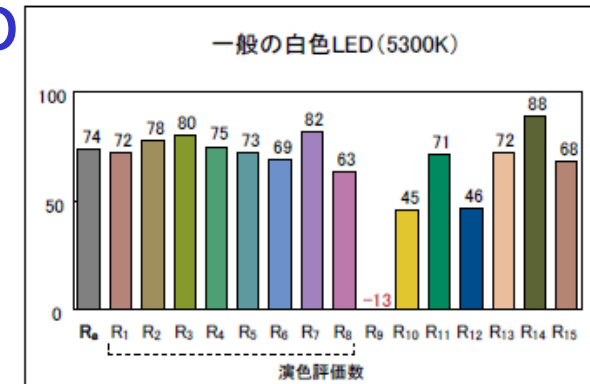


3波長蛍光灯 (Ra=70)



シーシーエスの自然光LED (平均演色評価数 Ra=98)

・JIS規格で定義される色を平均98まで再現できる光である。



従来の白色LED (Ra=70)

自然光LED搭載照明の商品化に注力

アパレル

商業施設の商品ディスプレイ用、ショーケース用照明



美術館・博物館用照明

美術館



自然光LED



食品



植物工場

(株)フェアリープラントテクノロジーの植物工場

- クリーンルーム

完全密閉型クリーンルームで清浄な野菜を栽培

- 空調

室内空調によって、野菜の好む最適な環境を作り出し、年間を通して旬の野菜を提供

- 人工光

光源に蛍光灯を採用(一部LEDを採用)

- 養液栽培

本来、野菜に必要なミネラル分をコントロールし、栄養価の高い野菜を栽培

- 生産性

季節や天候に左右されることが無く、年間を通して均質な商品を安定的に提供

植物工場のメリット：
完全閉鎖型植物工場で栽培しているので、
安心・安全な野菜を安定供給できる



CCSの植物育成用LED照明

LEDを用いる最大のメリット:

植物の栽培に必要な波長バランスを自由に選択できること。
これにより、蛍光灯より効率よく栽培することが可能となる。

- **波長特性**

栽培に必要な波長バランスで照射可能

- **低消費電力**

省エネ工場の実現

- **長寿命**

メンテナンスフリーの実現

- **低放射熱**

近接照射による栽培スペースの有効活用

- **形状自由度**

対象物に合わせた光照射



京都から世界へ

～京都発 光の世界企業を目指す～

他社に先駆けて画像処理用LED照明を海外へ輸出

1993年 シーシーエス株式会社を設立

1994年 画像処理用LED照明事業に特化

1999年 アメリカに関係会社を設立

2003年 上海に駐在員事務所を設立

2004年 シンガポールに関係会社を設立

2004年 ベルギーに関係会社を設立

2008年 深センに駐在員事務所を設立

2010年 CCSAsia タイに駐在員事務所を設立

